



石綿 恒

勤務先：

株式会社構研エンジニアリング 環境保全室

〒065-8510 札幌市東区北18条東17丁目1番1号

TEL 011-780-2816

FAX 011-785-1501

E-mail : h.ishiwata@koken-e.co.jp

専門：環境部門

1. 自己PR

私は1971年（昭和46年）福島県会津若松市で生まれ、自宅裏が山林だったこともあり、幼少の頃より樵兼猟師の祖父に連れられ、春は山菜採り、夏はイワナ釣り、秋はキノコ採り、冬はウサギ撃ちと、毎日のように野山を駆け回って、四季折々の自然の叡智をいやという程体感してきました。

この泥臭い生活から脱出すべく、大学卒業後は大手広告代理店を受けるも頭足りずに振り落とされ、取り敢えず就職した出版社編集部も釣りに特化した出版社故に、結局は魚を追って野山に戻るはめに。その後、本州の環境建設コンサルタント会社を経て、昨年現在の会社に転職してきた次第です。

現在も環境系の部署に在籍しており、「三つ子の魂百まで」の諺通り野山から脱出できない生活を送っています。もっとも、釣り好きの私にとって、サケマスが豊富な北海道は最高の場所ですが。

2. 受験体験

これまで主に自然環境に関する業務に携わってきたため、環境部門を受験しましたが、専門科目についてはインターネットの過去問題等を解くと8割ぐらい正解していたので、さらに一般科目についても専門と類似する設問が少々あるのでこれらを確実に取れば問題ないと思い、特に勉強はしませんでした。日頃の業務を疎かにしなければ解ける設問内容だったと思います。ただし、私も然り、環境系の人間はインチキくさい人が多いので適正科目は参考書

も購入し、しっかり勉強しました。

ちなみに、インチキくさい人ですが、北海道は赴任して間もないためよく分かりませんが、本州にはヤマ師やら勝負師やら錬金術師やら技術士と呼ぶには程遠い人がたくさんいました。

試験前日は3連休の中日で絶好の釣り日和でした。性格上フラストレーションを溜めると、集中力を欠き、翌日の試験に悪影響を及ぼすと考えたため、何の躊躇いもなくサケ釣りに行き、大漁の喜びのまま気持ちよく試験を受けることができました。もし、これが不漁だったり、試験当日も晴れの釣り日和（試験日は雨でした）だったら不合格で、今回ここに掲載されることもなかったと思います。

3. 今後に向けて

北海道の生物相は、津軽海峡のブラキストンライン（生物境界線）を挟んで、サハリンや極東など北方系の種が多く混在するため、本州のそれとは大きく変わり、日本にあって日本にあらずという感を受けます。また、緯度が高いために本州では高山帯や風衝地、高原に生育・生息する種が低山帯や低地にも産し、中にはクリティカルな種も多く含まれており、野山に入る度に一喜一憂しています。さらに河畔林や海浜植生等は、現在減少傾向にあるといわれていますが本州とは比べものにならないほど未だ良い状態で残っていると思います。そして何よりも天然遡上するサケマスの姿は圧巻で、本州に比べ質量ともに優れています。

環境をやっている者にとって、このような環境条件を相手に仕事ができるのは、技術者冥利に尽きるの一言です（私だけかもせれません）。それには先ず技術士二次試験を突破し、高い倫理意識と高度な専門技術力を持って社会貢献したいと思います。

4. 今後に向けての本音

道内の釣り業界は竿1本とっても「北海道〇×バージョン」があるぐらい市場は比較的確立されたもので、将来は釣具屋店主を志しています。それには、やはりサケマスを安定的資源にするため、水環境を良好に維持できればと考えている今日この頃です。